

FRIENDS

という逆説的ともいえる設備へのアプローチから始まる。自然を優先し、その力を最大限利用することでその機能をカバーし、足りない部分が出て始めて機械で補うという考えだ。

設備設計屋なのに設備を否定している。設計料は工事金額に対しても割合だから、当然収入は減少する。この矛盾をどうクリアーしているのだろうかと疑問がわく。

石黒社長の話では「成功報酬—成果

に対する正当な金額をもらう」とのことである。建設設備のコンサルティング

料というわけだ。

また同社が営業をする場合、保守・

修繕の重要性を説き、メンテナンスプロ

グラム、ファシリティマネジメント(※)、エ

ブやヤマハグループではこうして全面的

エネルギー管理を予測して提案するのだが、取扱かりの企画調査に関する費用は全て自前である。

一業種一社をモットー

日本グリーンビルディング協会の創設

石黒社長は、異業種が集まり、環境に優しい建物づくり・まちづくりを目指す「日本グリーンビルディング協会」を創立し、現在、全国の100を超える参加企業のもと副会長として活躍している。平成9年に第1回を開催した地球環境グリーンセミナーは、東京名古屋、さらに今年はアースデイ30周年「2000年地球の日」フェスティバルを名古屋久屋大通り公園で去る4月22日、23日大々的に開催した。

また先般、米国での事例をまとめたグ



広島ワシントンホテルプラザ

に信頼を勝ち得て、長きにわたりコンサルティングをしている。

通常、ビルの所有者は建物本体のみの設計を重視し、そのためテナントにどう

では大変使い勝手が悪い状況が発生したり、維持管理のランニングコストが増加したりする。

ワシントンホテルプラザの場合、設計段階からテナント側に立つて関わり、快適なホテル環境の創出・運営、無駄な設備の排除、環境保護実践活動と望ましい成果をあげている。

「リーンディベロップメント」を監訳出版した。

街のグリーン化の実践事例として大きな反響を呼んでいる。

※ファシリティ：便宜、設備、施設、機関。特にホテルなどで利用者の便宜を図るために設置。

(集英社「みだら2000」より)



ヤマハ発動機テクニカルセンター